



昭和女子大学  
現代ビジネス研究所  
Institute for Project Learning

# News Letter

昭和女子大学 現代ビジネス研究所 |-----| ニューズレター |

2

Greeting

## 所長挨拶

久原 正治  
Masaharu Kuhara

昭和女子大学現代ビジネス研究所は、産業界・地域と連携するこれまではない革新的な教育・研究環境の創出を目指して、女子大として初めてのグローバルビジネス学部の創設と同時に2013年4月に開所されました。初年度は小原副学長が所長を兼任し、70余名のビジネス経験豊富な多様な学外の研究員、関連教員、学生、事務局により、様々な共同プロジェクト(学内のプロジェクトはデザインオフィスが統括)、研究員の研究活動(うち10件は大学より研究資金提供)、研究員による研究交流会(16回のサロン開催)、セミナーを中心としたイベント(14回開催)が開かれ、活発なスタートとなりました。これらの大半は学外にも公開され、開かれた大学を体現しています。



2014年度に入り小原副学長から所長を引き継ぎ、4月には12名の新たな研究員を迎え、またグローバルビジネス学部のボストンに留学していた2年生全員も9月に帰国し、従来からの教員中心のプロジェクトや研究員の研究をより産学が協同した作業に近づけるべく、教員、外部からの研究員、学生、事務局一体となった様々な共同プロジェクト実施の流れにかじを切っています。10月から12名の研究員が講師を務める「プロジェクト研究」の授業も始まり、新たなビジネス教育のモデルとなることが期待されます。研究員の皆様並びに教員、学生諸氏の諸活動への積極的な参加とその成果を期待します。

## ▶ 研究セミナー

### 「コミュニケーションの極意」

講師の上田まりえ氏は、日本テレビ入社6年目の中堅アナウンサーで、これまで「バンキシャ」や「ぐるナイ」を始め多くの番組に携わってこられたが、セミナーでは「なぜアナウンサーをめざしたのか?」「就職活動に際して取り組んだこと」「心がけたこと」など、アナウンサーとしてキャリアを積まれる前のご自分を振り返ってお話された。

上田氏は、小学校3年生の時、放送部で活躍する主人公のマンガを読み、「しゃべること」に興味を持ち、それ以来ずっとアナウンサーになることを希望してこられた。そして、アナウンサーになるために、大学生生活を通じて、自分が一番好きな「野球」に関してあらゆることを勉強し続けられ、ついにプロ野球選手に「僕より野球のことに詳しいね。野球のことが本当に好きなんだね。」と言われるまでになった。

実際の就職活動に先立って、自分の希望とその理由を深く掘り下げられ、就職試験では「いつもの自分であること」を心がけられ、特別なことは何もしていないと断言された。また、最初に受けた日本テレビに採用されたことも「運とご縁があったから」ともおっしゃった。

講演後、参加者から「インタビューの極意は?」とか「就職活動をアナウンサーという仕事に絞って不安ではありませんでしたか?」など、たくさんの質問が寄せられたが、ひとつひとつの質問に、てきぱきとまた誠実にお答えになる上田氏の姿がとても印象的だった。

(文責: 研究員高橋恵子)

日時: 6月21日(土) 13:30~15:00

会場: 80年館5L44教室

講師: 日本テレビ放送網株式会社アナウンス部  
上田 まりえ氏



## ▶ 公開講座

### 「実践的研究のすすめ」

明治学院大学のマーケティングの教授から、明治大学のMBAの教授になられた上原教授だが、MBAの教授ならではの、実学の重要性について語られた。

はじめに、研究受託機関として高く評価されるには、まず、多くの人が行っている「売れている研究をする」ではなく「売れる研究を創る」。「すぐ読まれる論文」ではなく、「長く読まれる論文にする」。この2つの実行によってブランド力を創る。ここでいうブランド力とは、今使用、消費していないが、ブランドを見聞きしただけで欲しくなる状況である。また、ブランドをロングセラー化する為には、「ニューカテゴリーの創造」である。ニューカテゴリーとは、先発で新しいことをすること。事例としては、大塚製薬のポカリスエット、カロリーメイトやサントリーのウーロン茶などが挙げられた。そのブランド力の構築に重要な要素は他にもあって、それが固定客化力である。

また、個人研究の部分にも話は及んだ。まず、実学を教えているMBAとマーケティングから示唆を得る。それらのことから物事の本質を見抜く。良い研究とは、「弱い仮説」（現実に近い条件）から「強い結論」（目から鱗が落ちる）へ導くこと。

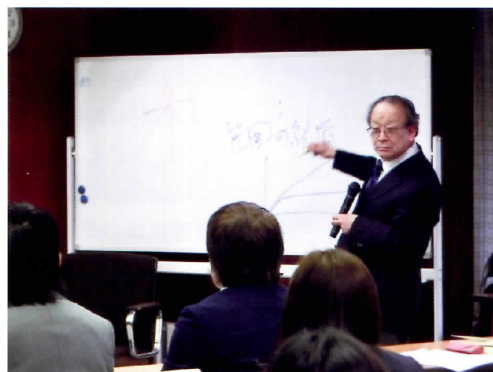
MBAの手法であるフレームワークや用語をピックアップして、はじめてMBAに触れる人にもわかりやすく、要点を述べられた。

これらを踏まえ、個人研究の融合、組織型研究と知の相互作用によって、色んな論点生まれ、実践的解を創出する機会があるので、違う研究をしている人とも情報共有をすることを説かれた。（文責：研究員池田友美）

日時：2月22日(土) 15:30～17:00

会場：大学1号館2M01室

講師：明治大学専門職大学院  
グローバル・ビジネス研究科教授  
上原 征彦氏



### 「高齢社会のビジネスの可能性」

日本は2008年をピークに人口が減少し、超高齢化社会に向かっている。とりわけ75歳以上の比率が高まる2025年には、社会保障給付の中で医療・介護が著しく増加することが予想される。これまで日本の社会は人口増加を前提に構築されてきたが、今後は人口減少社会に対応するよう構造改革を進めなければならない。日本の国債発行残高のGDP比は200%を超えており、その最大の要因は社会保障にある。

社会保障費の伸びをコントロールするためには、民間事業の活用が必要である。医療・介護・保育分野には大きなビジネスチャンスがあるにもかかわらず、厳しい財政制約の中で政府が十分な供給を行えないため、貴重な需要が無駄になっている。混合診療の原則解禁、介護サービスの価格設定自由化など、質の高いサービスに対して利用者が高い料金を支払う、消費者とサービス提供者の双方が満足できる仕組みを構築すれば、潜在的な需要を顕在化させることができる。また、こうした参入規制改革、市場開放は、ターゲティング・ポリシーより有効な成長戦略でもある。介護に比べて使いづらいとされる保育サービスについては、介護保険と同様の枠組みで20～39歳を対象とした「育児保険」の導入を提言したい。子育て費用を社会全体で負担するとともに、基礎的な保育と選択的なサービスを組み合わせた混合保育を実施し、専業主婦の家庭でも利用可能な保育サービスを提供していくべきである。（文責：研究員澄田知子）

日時：5月31日(土) 13:30～15:00

会場：80年館5L44教室

講師：ビジネスデザイン学科  
八代 尚宏特命教授





## プロジェクト研究発表会



<発表プロジェクト>

- ◇配財プロジェクト with SWU
- ◇「はこじょ」創造プロジェクト2013
- ◇三茶さんちやを楽しもう!
- ◇輝け☆健康「美」プロジェクト
- ◇勇気の翼ファッションショー
- ◇産学連携デザインノベーション事業  
「ヒキフネ×昭和女子大学」

2013年度に本学学生と教員が取り組んだプロジェクト研究の報告をし、連携企業や自治体等の関係者とともに、その成果について検証し、次年度への取り組みおよび教育プログラムに反映するものです。6件のプロジェクトが発表しました。様々な特性のあるプロジェクトの発表があり、発表学生は活動してきた成果に基づいて堂々と発表していたことが印象的でした。本年度も2月28日にプロジェクト研究発表会を開催します。

## 研究員報告会・交流会



2013年度に現代ビジネス研究所で助成金を採択された10件のプロジェクト研究の報告会を開催しました。研究員間での共同研究や、本学学生と協働して進めた研究等、様々なプロジェクト研究の報告がありました。報告会后に、2014年度新研究員をお迎えし、交流会を行いました。

## 助成金採択プロジェクト

現代ビジネス研究所では、研究員の研究活動を支援するために優れた研究に対して研究経費の一部を助成しております。2014年度は18件の応募があり、審査の結果、下記9件を採択しました。研究員間での共同研究や、本学学生と協働して進めている研究もあります。年度末には現代ビジネス研究所で報告書をまとめ、報告会を開催します。

研究員名	プロジェクト名
1 江口 智子	6次産業化による地域経済活性化の具体的方策に関する研究 ～山梨県におけるワインツーリズムの課題と可能性～
2 大橋 重子	SWUライフキャリアイメージサーベイプロジェクト(SWU LCIサーベイ)
3 小松 裕長	観光地における女性を中心とした新たなコミュニティビジネスの可能性 ～はこねのもり女子大学ビジネス特性の抽出～
4 齊藤 七生	ICTを活用した声掛け(学生)ボランティアの可能性に関する実証研究
5 鈴木 宏幸	就職人気上位ランキング企業におけるビジネスモデルの研究
6 但本 伸子	女子学生における消費者問題の関心分野と危機管理意識の現状
7 前田 純弘	デジタルネイティブのメディア接触状況、情報行動の調査研究
8 松本 考史	星空から地域コミュニケーション ～広く地域住民の為に活用する方法の模索～の研究
9 柳川 伸二	昭和女子大学生の国際協力に関する意識調査 ～「グローバル人材」の育成に向けた現状と課題～

## 研究員サロン

現代ビジネス研究所では月1回研究員サロンを開催しています。毎回研究員や本学教員が発表をし、その発表に対して議論をします。発表内容は助成金採択者の中間報告や、研究員自身の研究報告等、内容は多岐に渡ります。今年度は研究員サロンから分科会が派生し、研究員の自主的な活動が広がっています。

開催日	テーマ	発表者
5/10	日本食&あぶら 一食文化の視点から	大橋きょう子教授
6/10	映画を見ると経営がわかる	久原正治所長
7/5	メディア接触状況調査プロジェクトと社会調査の仕組み	前田純弘研究員 宮脇啓透研究員
7/18	就職人気企業ランキングの変遷とビジネスモデルの形態を研究する	鈴木宏幸研究員
8/20	「女性のキャリアを考える会」のご紹介	山口理栄研究員
9/6	「ドラマでみるLCC経営」～竹内結子のチーフフライト～	竹中哲也研究員

Pick UP!



2013年度末に80年館に「西棟」が増床され、こちらに現代ビジネス研究所・昭和デザインオフィスが引っ越しをしました(8N-5T41,5T42)。80年館西棟にはコスモスホールや中教室、またビジネスデザイン学科の拠点もあり、より多くの学生の皆さんに現代ビジネス研究所・昭和デザインオフィスの活動を知ってもらい、身近に感じていただきたいです。

現代ビジネス研究所開所時間  
火～土 10:00～19:00  
(木曜日のみ20:00まで)

「昭和デザインオフィス」は、「現代ビジネス研究所」の1セクションとして機能し、全学の学生・教員に開かれた研究施設として設置されています。学内のプロジェクトを統括し外部団体に対してはプロジェクト申請の窓口となる組織であります。大学のカリキュラムと関連するプロジェクトや企業や地域と連携したプロジェクトあるいは大学から外部に発信するプロジェクトまで多様に推進しています。プロジェクト研究に取り組む学生の教育・学習支援を行うアクティブラーニングの活動拠点でもあります。

「昭和デザインオフィス」は、企画、デザイン関連の教員が中心となって指導し、各学科の教員と学生のデザインを介しての交流を行うことを一つの目的と考えております。機器・設備面も最新の企画・デザイン関連の施設を導入し、実社会のオフィスと同等の業務を大学内で行っていくことがこのデザインオフィスの目的です。

## 平成26年度前期認定プロジェクト

プロジェクト名	コラボ先<担当者>
セタコレック2014	IID 世田谷ものづくり学校(世田谷における製造業の情報提供) (協力:一般社団法人配財プロジェクト)<金子友美>
三茶さんちゃを楽しもう!プロジェクト	三軒茶屋銀座商店街振興組合7商店街組合及び世田谷区太子堂出張所<瀧沼鶴子>
手をつなごう♪下馬福祉工房&福祉社会学科コラボカフェ	世田谷区福祉工房<福祉社会学科福祉キャリアコース教員>
1 渋産 - シブサンアクリルプロジェクト -	(協働)有限会社アクリアル (協力)株式会社Roland DG, トロテックレーザージャパン株式会社, 日東樹脂工業株式会社<橋本央>
世田産 - セタガヤデザインプロジェクト -	(協働)世田谷区及び公益社団法人せたがや文化財団 (協力)有限会社相川樹脂工業, 宇田川ブリキ, 有限会社繁岡美術, 株式会社友成工芸 (後援)世田谷区, 世田谷区教育委員会<橋本央>
木曾漆器デザインプロジェクト	財団法人塩尻・木曾地域地産産業振興センター<橋本靖子>
まちおこし応援プロジェクト 三軒茶屋 一学生による第2回よいしよ祭りの企画・広報・運営一	三軒茶屋銀座商店街振興組合<木村信之>
2 渋谷桜丘町づくり-Beyond 246-	渋谷駅前共栄会・桜丘町会<友田博通>
3 渋谷センター街セタまつり	渋谷センター商店街振興組合<友田博通>
4 健康☆美カフェ in 望秀学寮	鶴山市<小川睦美・白川聡子>
タバタ式トレーニングでギネスに挑戦	未結核<小川睦美・白川聡子>
5 三茶・三宿まちなかプロジェクト	三軒茶屋まち道楽実行委員会, 太子堂商店街, 三番西二〇商店会, 世田谷パン祭り実行委員会, 下の谷商店街, 下の谷町<鶴田佳子>
6 フロアホッケー-昭和女子大学せたがやウッキーズ	せたがやウキウキクラブ(協働), 日本フロアホッケー連盟<渡辺剛・小森重紀子>
7 はこじょ創造プロジェクト2014	一般社団法人はこねのもりコンソーシアムジャパン<薬袋貴久>
SWeets dream -setagaya-	昭和信用金庫及び島屋商店<小川睦美・石井幸江・原正美>
せたがや芸術文化プロジェクト	世田谷文化財団(予定)<福田淳子>
世田谷美術館「SeTaBi Café」ピクニック・ランチ ボックス(PLB)プロジェクト	株式会社世田谷サービス公社及び世田谷美術館附属レストラン支配人・シェフ<梶谷美砂子>
ホンノバ・プロジェクト	NPO@リアス, 桑畑書店<杉浦久子>
8 これからの暮らしと女性	リスト株式会社, 他関連企業<金尾朝・金子友美・香場美恵子・芦川智>
Vカット技術を活かしたプロダクトデザインプロジェクト +X+ (Plus by Plus Design Project)	ジャパン・プラス株式会社<中田士郎> ※産学連携デザイン/ペーシオン事業



## Idea Competition 2014

株式会社オルセン × 昭和女子大学

「Idea Competition 2014」では、株式会社オルセンから依頼を受け主力商品である、プリーズ&ウェーブ生地を用いた生活用品のアイデアコンペを学内で開催しました。

全学学生を対象に「生活に馴染み、親しみのわくような生地の使い方」のアイデアを募集し多数の応募があり、どのアイデアも生地の特性である透過性、通気性、UVカットなどをしっかりと考慮し、生活者の目線から発想された魅力的なものばかりでした。

昭和デザインオフィススタッフと株式会社オルセンとの厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、入選5点の8作品が受賞致しました。



□最優秀賞  
作品タイトル: Wrap mock  
作品説明: 包み込むような温かさ、生地の特性を活かしたハンモックチェアの提案。  
所属: 環境デザイン学科  
氏名: 川村 未紗・佐藤 圭純



□優秀賞  
作品タイトル: 環・わ・めぐる, 日本のこころ  
作品説明: 破れず、洗えて何度でも使える障子としての提案。  
所属: 環境デザイン学科  
氏名: 川村 未紗・佐藤 圭純



□優秀賞  
作品タイトル: 夏足袋  
作品説明: 夏のお祭りに。足袋としての提案。  
所属: 環境デザイン学科  
氏名: 石村 今日子・尾方 友美